

「はやぶさ」が教えてくれたこと

栃木県國學院大學栃木中学校 三年 菊地 陸

僕は昨年十四歳となり、大人の入り口に差し掛かった。

立志式を迎え、自分が大人になる覚悟や将来のこと、大人になる過程について考えてみた。

僕は幼稚園の頃、消防士になりたいと思っていた。人を助ける仕事ってカッコいいというくらいの単なるあこがれだった。

僕に転機が訪れたのは二〇一〇年、小学三年生の時だった。

二〇〇二年、宇宙航空研究開発機構・JAXAが開発した小惑星探査機「はやぶさ」が打ち上げられた。大きな使命と期待を背負っていた。

二〇一〇年、小惑星の微粒子と共に、はやぶさが地球に帰還した。僕はその微粒子を見るために、東京国立博物館へ行った。

そこには微粒子はあるものの、はやぶさの姿がない。博物館では、はやぶさが帰還した時の映像が映し出されていた。青く輝く光に包まれながら燃え尽きていくはやぶさの姿だった。映像やいくつかの資料から、はやぶさは宇宙での壮大な冒険の中、いくつもの困難を乗り越えて帰還したのだと知った。はやぶさは、自分に課せられた使命と期待を裏切ってはいけないという強固な思いを胸に冒険していたのだ、と僕は思う。そして、最後までその信念を貫き通したはやぶさの姿に、僕は感動した。もう一度はやぶさが持ち帰った微粒子を見て、これははやぶさの「思いの塊」だと思った。その後、他の科学館に行ったり、映画や本で知識を深めた。そして僕は新たな夢を見つけた。JAXAに入って働くという夢だ。

この夢を実現するためには、自分に足りない五つの力を補わなければならない。それは、コミュニケーション能力、積極性、学力、思考力、幅広い視野を持つことだ。

コミュニケーション能力と積極性は働く上で特に大切になる。第一歩として、僕は昨年から、生徒会副会長として活動している。今は九月に行われる國學院祭にむけての準備に大忙しの日々だ。これまで、行事の活動分担や話し合いでの提案などに積極的に参加してきた。その中で、周りを見渡しながら幅広い視野を持った意見が言えるよう意識してきた。

学力においては、特に国語の力が重要だ。宇宙というと理系のイメージだが、国語は全ての基礎だと思っている。だから、さまざまなジャンルの本を読んだり、日記を書き続けたりという小さなことをこつこつ積み重ねながら、勉強している。

最後に、思考力についてだが、考えて行動しなくては、それこそ働き続けることなどできない。考えない人は計画も立てられないから、物事が成功しない。将来の夢を実現させるためにも、考えて行動するということを意識して、日々を過ごしていきたい。

こうしたこと考えることで分かったことがある。それは、働く意味についてだ。以前、僕は働く意味は生計を立てるためだけかと思っていた。しかし、それだけではなく、他人のため、社会のために働く。すなわち、皆が協力して暮らせる社会を築くために働くのだと僕は気付いた。

人は誰もが幸せな暮らしをしたいと思っている。僕も思っている。しかし、幸せな暮らしの裏には大変な苦労がある。働く大変さは昨年の職場体験で知った。多くの人が僕たちの知らない苦労をし、日々努力している。幸せな暮らしは、働いた努力の結晶だ。

これから、大人になるため、将来の夢を実現するため、自分の歩むべき道を一步一步、確実に^進んでいきたい。たくさんの困難があるだろうが、誰よりも努力して、誰よりも粘り強く、未来に向かって。

そう、はやぶさのように。